


# 2027年3月期 第２四半期 決算説明会

2026.11.6

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

# 目次

## 2027年3月期 第２四半期決算状況


決算のポイント 3

１．連結決算サマリ

- 連結業績・業績予想 6
- 営業利益増減要因（前年比較） 7
- 営業外損益などの増減要因（前年比較） 8

２．セグメント別業績・予想 9

- モビリティ：鉛蓄電池（国内） 10
- モビリティ：鉛蓄電池（海外） 11
- モビリティ：リチウムイオン電池 12
- 社会インフラ：産業電池電源 13
- 社会インフラ：航空・宇宙・防衛 14

３．貸借対照表 15

４．キャッシュ・フロー計算書 16

５．設備投資・減価償却費・研究開発費 17


## 社会インフラにおける蓄電池ビジネスについて


社会インフラを取り巻く環境変化 19

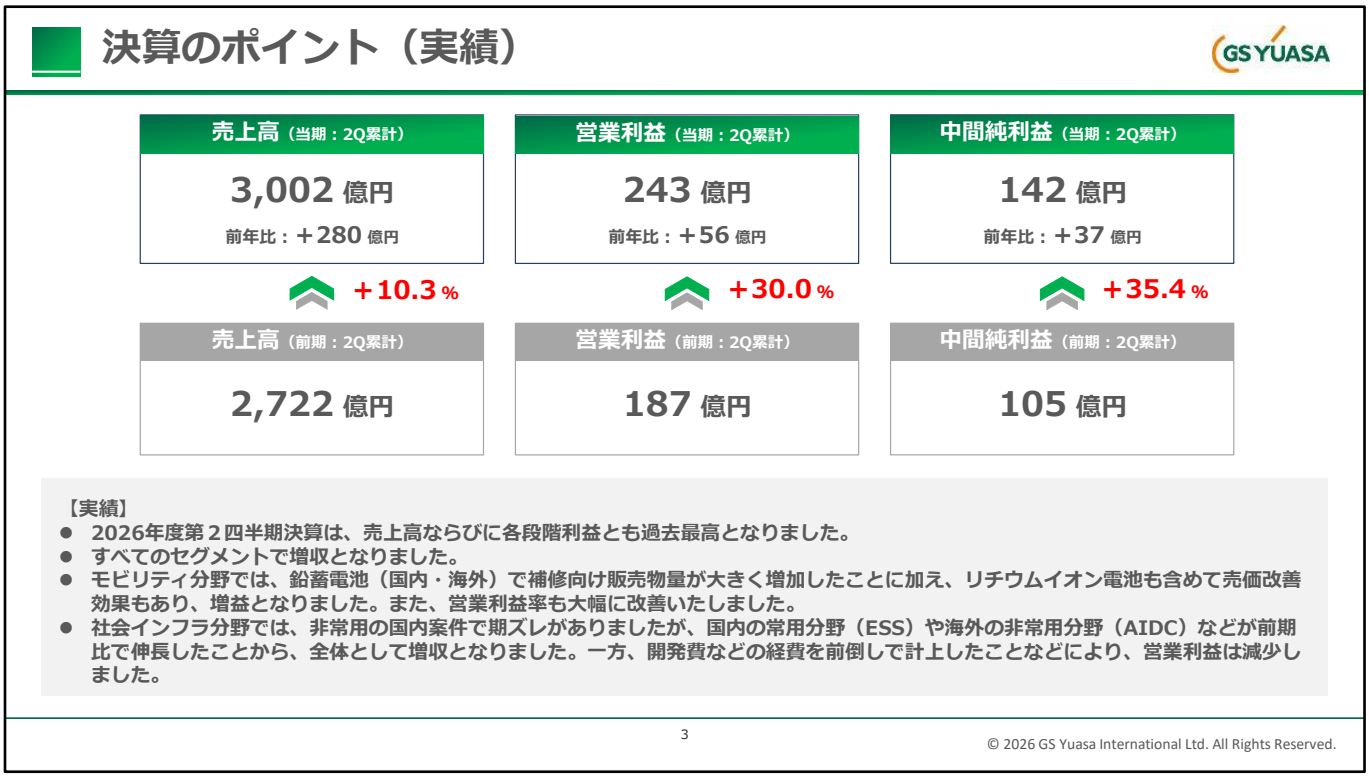
電力システムを取り巻く環境変化 20

常用（ESS）市場について

- 市場の成長性について 21
- ＧＳユアサの競争優位性 22
- 経済産業省などの制度 23

北米向けAIDC・国内向けDCビジネスについて

- ＧＳユアサの役割 24
- 北米ＤＣマーケットの拡大 25
- 国内ＤＣの見通し 26

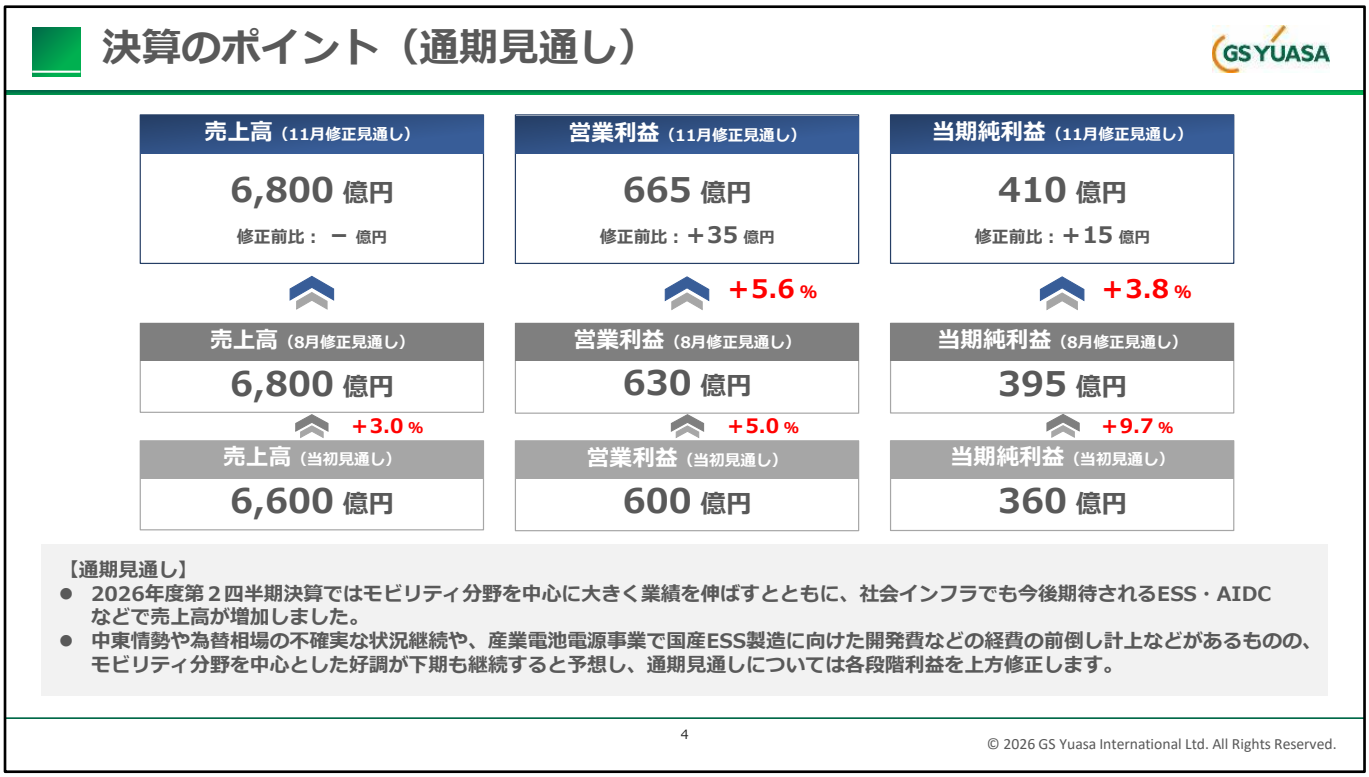



決算のポイントです。

売上高は3,002億円となり前年同期比+10.3%
営業利益は243億円となり前年同期比+30.0%
中間純利益は142億円となり前年同期比+35.4%となりました。

売上高ならびに各段階利益ともに過去最高となりました。
モビリティ分野、社会インフラ分野の全セグメントで増収。
モビリティ分野では鉛蓄電池（国内・海外）で補修市場の需要が旺盛で販売数量が増加し増益に寄与。
リチウムイオン電池も、販売価格の改善と数量増により増益となりました。

一方で社会インフラの産業電池電源事業では、非常用・常用ともに受注は堅調に推移しているものの、
顧客都合の建設工事の長期化による納期の期ズレやESS・AIDCの開発経費の前倒しにより、減益となっております。
開発経費は、茨城で建設中のESS工場で製造予定の電池に対するものです。
航空・宇宙・防衛事業では、飛翔体向け熱電池の需要が旺盛で増収となったものの、
潜水艦用リチウムイオン電池の契約見直しにより微減益となりました。




通期見通しです。
売上高は6,800億円と据え置き。
営業利益665億円と+35億円の上方修正。
当期純利益は410億円と+15億円上方修正いたしました。

市場の不確実性、インフレによる原材料・エネルギー費などのコスト上昇圧力は継続するものの、
各セグメントの足元の状況と課題への取り組みを勘案し、利益押し下げ要因となる様々なリスクへの対応を進め、業績予想の達成を目指します。

GS YUASA
Creating the Future of Energy

# 2027年3月期 第２四半期決算状況

## 1 連結決算サマリ 連結業績・業績予想

| (単位：億円) | 2025 年度 第2四半期 (4-9月) | 2026 年度 第2四半期 (4-9月) | 増減 | (前期比) | 2026 年度予想 修正予想 (2026.8) 上期 (4-9月) | 2026 年度予想 修正予想 (2026.8) 通期 (4-3月) | 2026 年度予想 修正予想 (2026.11) 通期 (4-3月) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 2,722 | 過去最高 3,002 | +280 | (+10.3%) | 3,130 | 6,800 | 6,800 |
| 売上総利益 | 641 | 749 | +108 | | - | - | - |
| 営業利益 (利益率) | 187 6.9% | 過去最高 243 8.1% | +56 +1.2P | (+30.0%) | 220 7.0% | 630 9.3% | 665 9.8% |
| 経常利益 | 173 6.4% | 過去最高 244 8.1% | +71 +1.7P | (+41.0%) | 210 6.7% | 610 9.0% | 635 9.3% |
| 税前中間純利益 | 185 | 243 | +58 | | - | - | - |
| 親会社株主 中間純利益 (利益率) | 105 3.8% | 過去最高 142 4.7% | +37 +0.9P | (+35.4%) | 120 3.8% | 395 5.8% | 410 6.0% |
| EPS (1株当たり中間純利益) | 104.33 円 | 141.23 円 | +36.9 円 | | 119.62 円 | 393.74 円 | 408.68 円 |
| 中間配当金 (円／株) | 30 円 | 30 円 | － 円 | | 30 円 | 98 円 (年間) | 98 円 (年間) |
| CF計算書関係 減価償却費 | 122 | 134 | +12 | | | | |
| 相場情報／前提条件 国内鉛建値 (万円／t) | 35.10 万円／t | 37.20 万円／t | +2.10 万円／t | | 38.0 万円／t | 38.0 万円／t | 36.0 万円／t |
| 相場情報／前提条件 ＬＭＥ (US$／t) | 1,956 US$／t | 1,906 US$／t | △50 US$／t | | 2,000 US$／t | 2,000 US$／t | 1,875 US$／t |
| 相場情報／前提条件 為替 (円／US$) | 146.07 円／US$ | 160.04 円／US$ | +13.97 円／US$ | | 160.00 円／US$ | 160.00 円／US$ | 160.00 円／US$ |

**業績の動向**

- 第2四半期では、売上高・各段階利益とも過去最高を更新。
- すべてのセグメントで増収となったことに加え、鉛蓄電池（国内・海外）とリチウムイオン電池セグメントで増益となった。
- LMEはほぼ横ばいで推移する一方、国内鉛建値は円安が進んだことで大きく上昇。その他一部原材料で高騰が見られる。
- 為替は前年対比では円安水準。

6

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

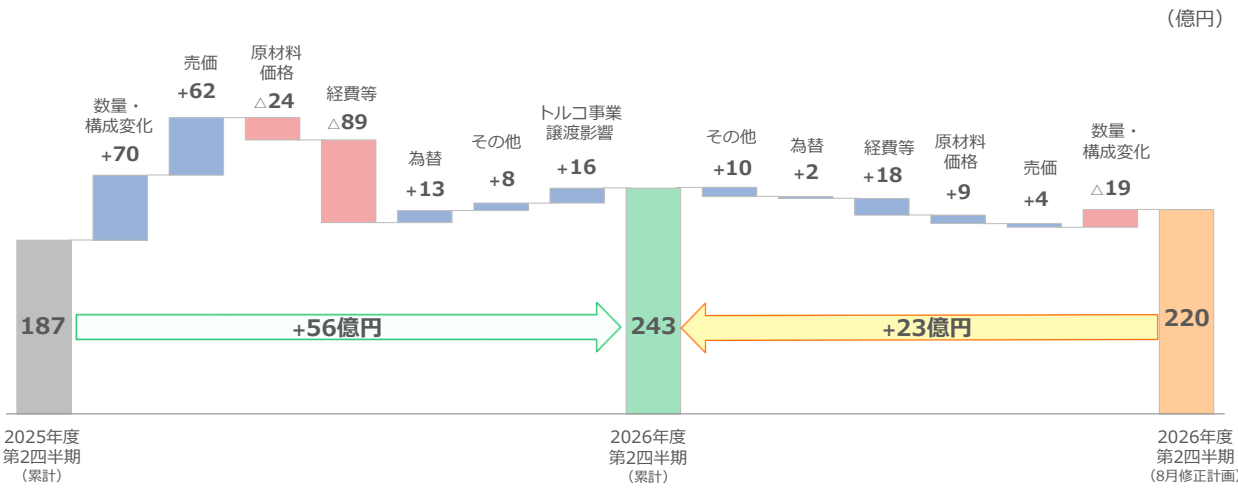
2026年度第2四半期 連結決算のサマリです。

各段階利益とも堅調に推移し、過去最高を記録しました。

売上高は3,002億円となり、前年対比で+280億円の増収でした。
営業利益は243億円で+56億円の増益、経常利益は244億円で+71億円の増益となりました。
当期純利益は142億円で+37億円の増益となり、各段階利益とも過去最高を更新しました。
すべてのセグメントで増収となったことに加え、鉛蓄電池（国内・海外）、リチウムイオン電池セグメントで増益となりました。

業績予想は売上高を据え置いていますが、そのほか当期純利益を除いた各段階利益については過去最高を目指します。

## 1 連結決算サマリ 営業利益増減要因（前年比較）






© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

営業利益増減要因です。

前年対比で+56億円の増加となりました。

労務費・物流費などの経費の増加やインフレ影響、原材料の一部高騰がありましたが売価スライド、売価是正の効果によりカバーすることできました。
補修用鉛蓄電池の販売数量の増加、トルコ事業の譲渡も増益要因の一つとなりました。

8月の修正予想からは、リチウムイオン電池、産業電池電源において一部想定よりも販売数量が減少しましたが、経費の削減や原材料価格のプラス影響などで増益となりました。

## 1 連結決算サマリ 営業外損益などの増減要因（前年比較）

（単位：億円）

| | 2025 年度 第2四半期 (4-9月) | 2026 年度 第2四半期 (4-9月) | 増減 |
|---|---|---|---|
| **営業利益** | 187 | **243** | +56 |
| 営業外収益 | 27 | **27** | +0 |
| 営業外費用 | 41 | **27** | △14 |
| **経常利益** | 173 | **244** | +71 |
| 特別利益 | 23 | **81** | +58 |
| 特別損失 | 10 | **81** | +71 |
| **税金等調整前中間純利益** | 185 | **243** | +58 |
| **法人税等** | 59 | **58** | △1 |
| **非支配株主に帰属する中間純利益** | 22 | **44** | +22 |
| **親会社株主に帰属する中間純利益** | 105 | **142** | +37 |

主な発生科目（）内は増減要因

- 持分法による投資利益　9億円
  （持分法損益の増加　＋8億円）
- 正味貨幣持高による利得　- 億円
  （トルコ事業譲渡による影響　△13億円）
- 為替差損　5億円
  （主に欧州拠点での為替差損益　△6億円）
- 支払利息　12億円
  （トルコ事業譲渡で支払利息減　＋19億円）

- 国庫補助金受贈益　69億円
  （茨城工場に係る補助金など　+67億円）
- 圧縮未決算特別勘定繰入額　69億円
  （茨城工場に係る補助金圧縮など　+67億円）

8

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

営業外損益、特別損益の内訳です。

トルコ拠点の事業譲渡により支払利息が大きく削減されました。
持分法損益の改善も進み、営業外損益では大きく改善が進みました。
特別損益項目では、茨城のESS向けの工場の取得による補助金の受け取りに対して、圧縮記帳を想定した損失を計上しています。

中間純利益は、営業利益、経常利益の増加を背景に142億円と+37億円の増加となしました。

## 2 セグメント別業績・予想

(単位：億円)

| | | 2025 年度 第2四半期（4-9月） | | 2026 年度 第2四半期（4-9月） | | 増減 | | 2026 年度 通期予想（4-3月） 修正予想（2026.8） | | 修正予想（2026.11） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 売上高 | 営業利益（利益率:%） | 売上高 | 営業利益（利益率:%） | 売上高 | 営業利益（利益率:P） | 売上高 | 営業利益（利益率:%） | 売上高 | 営業利益（利益率:%） |
| モビリティ | 鉛蓄電池（国内） | 471 | 37 (7.8) | **507** | **47 (9.3)** | +36 | +10 (+1.5) | 1,170 | 120 (10.3) | **1,200** | **140 (11.7)** |
| | 鉛蓄電池（海外） | 1,057 | 81 (7.6) | **1,126** | **128 (11.4)** | +69 | +47 (+3.8) | 2,400 | 265 (11.0) | **2,400** | **280 (11.7)** |
| | リチウムイオン電池 | 404 | 8 (2.1) | **457** | **18 (3.8)** | +53 | +10 (+1.7) | 1,070 | 40 (3.7) | **1,040** | **50 (4.8)** |
| 社会インフラ | 産業電池電源 | 683 | 52 (7.6) | **789** | **33 (4.2)** | +106 | △19 (△3.4) | 1,900 | 195 (10.3) | **1,900** | **180 (9.5)** |
| | 航空・宇宙・防衛 | 92 | 13 (14.3) | **108** | **13 (11.5)** | +16 | △0 (△2.8) | 230 | 25 (10.9) | **230** | **25 (10.9)** |
| | その他 | 14 | △4 | **15** | **5** | +1 | +9 | 30 | △15 | **30** | **△10** |
| | 合計 | 2,722 | 187 (6.9) | **3,002** | **243 (8.1)** | +280 | +56 (+1.2) | 6,800 | 630 (9.3) | **6,800** | **665 (9.8)** |

(注) 2026年度より鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。
2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。

**2026年度 第2四半期（4-9月）市況**

- **<鉛蓄電池（国内）>** 新車の物量は前年対比横ばいである一方で、補修向けの物量が大幅に増加したことで増収増益。
- **<鉛蓄電池（海外）>** 欧州や東南アジアを中心に物量の大幅な増加や為替の影響で増収増益。
- **<リチウムイオン電池>** 中東情勢の影響による材料費高騰などの影響がある一方で、トヨタ向けなどで物量が増加したことで増収増益。
- **<産業電池電源>** 常用分野や非常用海外が堅調に推移したことにより増収の一方で、開発費などの経費前倒し計上などで減益。
- **<航空・宇宙・防衛>** 熱電池の需要拡大により増収の一方で、潜水艦LiBの契約単価見直しなどにより減益。


© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

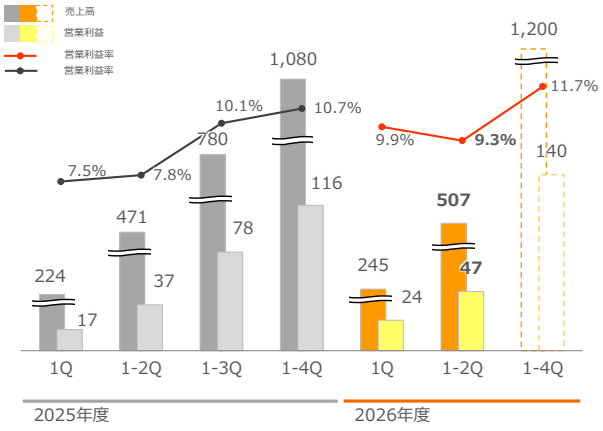
各セグメントごとの売上高・営業利益は各セグメントでご説明します。

通期のセグメント業績予想は鉛蓄電池（国内・海外）、リチウムイオン電池を上方修正しています。
産業電池電源については若干下方修正いたしました。

## 2 セグメント別業績・予想　モビリティ：鉛蓄電池（国内）

GS YUASA

売上高・営業利益・利益率（累計）　（億円）




2026年度 第2四半期商況（前年比：4-9月）　**増収増益**

- **[新車向け]**
  販売数量は横ばいの一方で、
  鉛の価格スライドなどにより売上高は増加
- **[補修向け]**
  販売数量の増加に加えて、高付加価値製品の増加による
  製品ミックス良化により売上高は増加

増減益要因（前年比：4-9月）

| | | |
|---|---|---|
| 数量・構成変化 | +10 | 補修向け数量増加 |
| 売価 | +25 | 売価見直しおよび鉛の価格スライドなどにより増加 |
| 原材料価格 | △15 | 国内鉛など一部原材料の高騰影響 |
| 経費等 | △9 | |

2026年度 通期見通し・環境認識（8月修正予想比）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 売上高 | **1,200億円** | （+30億円） | 補修向け物量の増加や値上げ効果を考慮し上方修正 |
| 営業利益 | **140億円** | （+20億円） | 上記売上高の修正を受けて、上方修正 |

10

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

鉛蓄電池（国内）は売上高507億円で+36億円の増収、営業利益は47億円で+10億円の増益となりました。

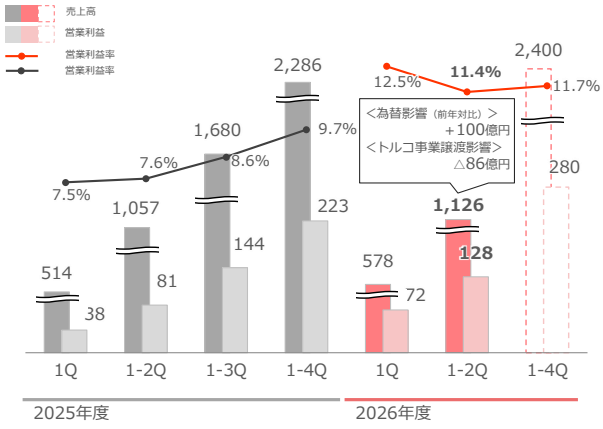
新車向けは販売数量はほぼ前年並みですが、鉛の価格スライドにより売上高が増加しています。

補修向けは販売数量が増加したことに加えて、ISSなど高付加価値製品が増加したことによる製品ミックス良化により売上高が増加しています。
原材料、経費の上昇を物量増、売価是正でカバーしました。

通期業績においては
上半期の補修向け物量の増加の継続や値上げ効果を想定し、上方修正いたしました。

## 2 セグメント別業績・予想 モビリティ：鉛蓄電池（海外）

売上高・営業利益・利益率（累計） （億円）




2026年度 第2四半期商況（前年比：4-9月） **増収増益**

- **[東南アジア]** タイおよびベトナムなどを中心として、補修市場における自動車用・二輪用の販売数量が堅調に推移
- **[欧州]** 自動車用・二輪用ともに販売数量が増加
- **[豪州]** 「Made in Australia」で販売数量は引き続き堅調に推移

増減益要因（前年比：4-9月）

| | | |
|---|---|---|
| 数量・構成変化 | +33 | 東南アジア中心に販売物量増による影響 |
| 売価 | +8 | コスト上昇分の売価反映等により増加 |
| 原材料価格 | +1 | LME価格の下落により良化 |
| 経費等 | △21 | インフレに伴う経費増加 |
| 為替 | +12 | |
| トルコ譲渡影響 | +16 | |

2026年度 通期見通し・環境認識（8月修正予想比）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 売上高 | **2,400億円** | – | 引き続き販売数量の好調を想定するものの、LME価格の下落などにより売上高は据置き |
| 営業利益 | **280億円** | （+15億円） | 補修向け物量の増加が下期も継続すると予想し上方修正 |

(注) 2026年度より鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。
2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。

11

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

自動車電池（海外）は売上高1,126億円で前年対比+69億円の増収、営業利益は128億円で前年対比+47億円の増益となりました。

トルコ拠点譲渡に伴う売上高の減少が86億円ほどあったものの、増収増益となりました。

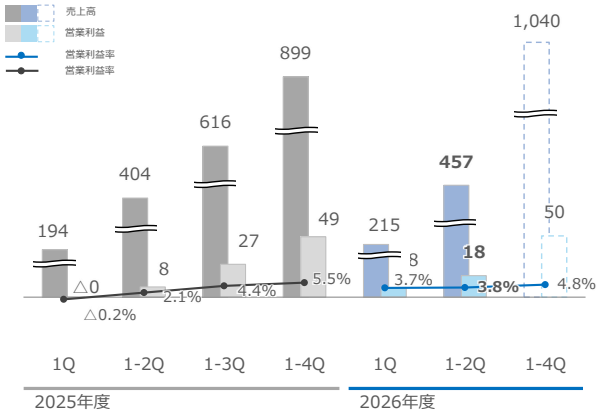
東南アジアのタイ、ベトナム、ミャンマーが堅調に推移しており、補修向けの四輪・二輪用の販売数量が好調です。
欧州・豪州での販売数量も増加しています。東南アジアの販売数量増による効果、インフレによる経費増をおさえて増益につながっています。加えて円安、トルコ譲渡の影響もありました。

通期業績において、
上期の販売数量の好調を下期でも継続すると想定しますが、LME価格の下落により売上高は据え置いています。
営業利益については、補修向け物量の増加が下期も継続すると想定し上方修正いたしました。

## 2 セグメント別業績・予想 モビリティ：リチウムイオン電池

GS YUASA

売上高・営業利益・利益率（累計） （億円）




2026年度 第2四半期商況（前年比：4-9月） **増収増益**

- **[HEV]** トヨタ向け販売数量が大きく拡大したことで売上高は増加
- **[PHEV]** 三菱自動車向けの販売数量の減少により売上高は減少
- **[12V LiB]** 販売数量の増加により売上高は増加

増減益要因（前年比：4-9月）

| | | |
|---|---|---|
| 数量・構成変化 | △0 | HEVの機種構成変化により減少 |
| 売価 | +44 | 前年度下期の売価見直しの影響等で増加 |
| 原材料価格 | △10 | 一部部材の高騰影響 |
| 経費等 | △24 | 新ライン稼働により償却費増加に加えて、研究開発費の増加 |

2026年度 通期見通し・環境認識（8月修正予想比）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 売上高 | **1,040億円** | （△30億円） | PHEVの販売数量低下により下方修正 |
| 営業利益 | **50億円** | （+10億円） | 下期にかけて売価見直しや不良率低減を予想し上方修正 |

12

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

リチウムイオン電池は売上高457億円で前年対比+53億円の増収、営業利益18億円で前年対比+10億円の増益と大幅な改善となりました。

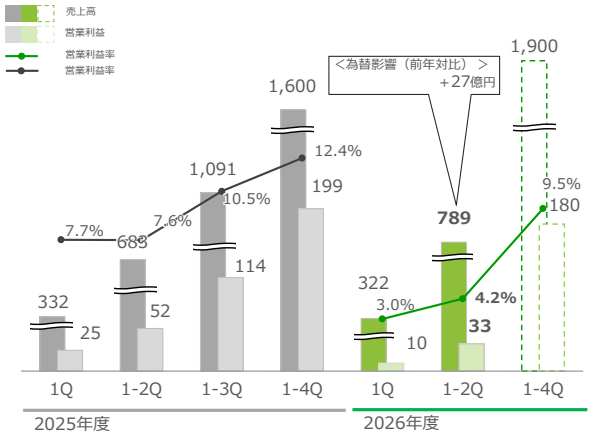
ハイブリッド車用のリチウムイオン電池はトヨタ様向けの販売数量が拡大しました。
プラグインハイブリッド車用は三菱自動車様向けの数量減少により売上高は減少しました。
12V LiBは販売数量の増加により売上高が増加しました。

営業利益は前年下期の売価見直しの効果もあり、経費・原材料高騰影響をカバーしました。

通期業績においては売上高の通期業績は8月の修正予想から30億円下方修正いたしました。
一方、営業利益は売価見直しやHEV用の不良率低減を考慮し、10億円修正いたしました。

## 2 セグメント別業績・予想　社会インフラ：産業電池電源

売上高・営業利益・利益率（累計）　（億円）




2026年度 第2四半期商況（前年比：4-9月）　**増収減益**

- **[常用（国内）]** 案件の増加に加えて、前期からの期ズレ影響もあり売上高は増加
- **[非常用（国内）]** 原子力向けやデータセンター需要は引き続き堅調の一方で、昨年のコンビニ向けの大口案件の反動減などで売上高は減少
- **[非常用（海外）]** 北米向けAIデータセンターの新規案件により増加
- **[フォークリフト用（グローバル）]** 販売台数は減少も売価見直しにより売上高横ばい

増減益要因（前年比：4-9月）

| | | |
|---|---|---|
| 数量・構成変化 | +17 | 常用案件の増加による影響 |
| 売価 | △9 | 低利益率案件の増加により減少 |
| 原材料価格 | +2 | 昨年アンチモンの高騰影響の反動で良化 |
| 経費等 | △29 | ESSやAIDCの開発費や労務費等の増加 |
| 為替 | +1 | |

2026年度 通期見通し・環境認識（8月修正予想比）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 売上高 | **1,900億円** | － | 建設遅れなどにより案件の期ズレが起こりやすくなっているが、年度内期ズレのため据置き |
| 営業利益 | **180億円** | （△15億円） | ESSやAIDCの開発費などの経費の前倒し計上などにより下方修正 |

(注) 2026年度より鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。
2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。

13

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

産業電池電源は売上高789億円で前年対比+106億円の増収、営業利益33億円で前年対比△19億円の減益となりました。

ESS等の常用分野では案件の増加に加えて、前期からの期ずれもあり増加しました。
非常用（国内）では原子力向け、データセンター向けの需要が継続して堅調ではあるものの大手コンビニ向けの大口案件の反動があり、売上高は減少しました。

非常用（海外）では今年度より北米AIデータセンター向けに新規案件で増加しました。

フォークリフトに関してはほぼ前年並み、横ばいとなっております。

一方で営業利益は、インフレなどによる経費の増加に加えてESSやAIDCの開発費の前倒し発生による10億を超える影響によって減益となりました。

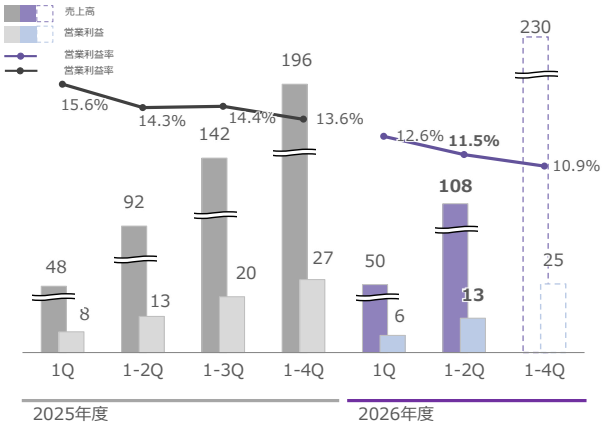
通期業績において、売上高は建設遅れなどにより案件の期ズレが起こりやすくなっていますが年度内期ズレのため据置いています。
一方で営業利益はESSやAIDCの開発費などの経費の前倒し計上などにより下方修正しています。

## 2 セグメント別業績・予想　社会インフラ：航空・宇宙・防衛

GS YUASA

### 売上高・営業利益・利益率（累計）

（億円）




### 2026年度 第2四半期商況（前年比：4-9月）

**増収減益**

- **[潜水艦用リチウムイオン電池]**
  償却期間終了にともなう契約単価見直しにより売上高は減少
- **[熱電池]**
  防衛向け需要増のため売上高増加
- **[航空・宇宙用リチウムイオン電池]**
  新設・エアライン（補修）向けともに需要増のため売上高増加

### 増減益要因（前年比：4-9月）

| | | |
|---|---|---|
| 数量・構成変化 | +11 | 熱電池の需要増 |
| 売価 | △6 | 償却期間終了にともなう契約単価見直しにより減益 |
| 原材料価格 | △1 | |
| 経費等 | △5 | 労務費等の増加 |

### 2026年度 通期見通し・環境認識（8月修正予想比）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 売上高 | **230億円** | – | – |
| 営業利益 | **25億円** | – | – |



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

航空・宇宙・防衛は売上高108億円で前年対比+16億円の増収、営業利益13億円でほぼ前年並みとなりました。

潜水艦用リチウムイオン電池では償却期間終了にともなう契約単価見直しにより売上高は減少しました。

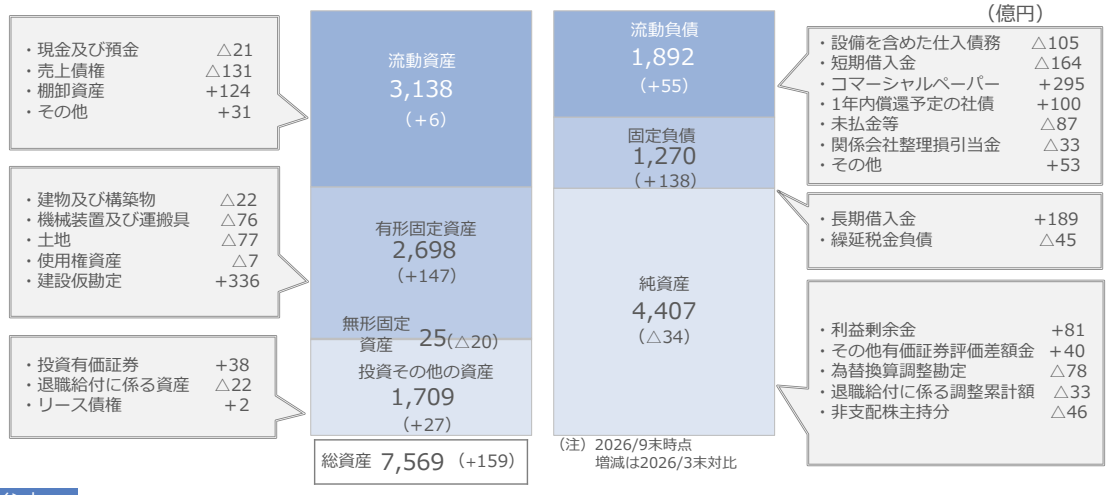
熱電池は防衛向け需要の増加により売上高が増加しました。

航空機用リチウムイオン電池は新設・補修向けの双方で需要が増加したことで売上高が増加しました。

利益面では、熱電池の物量増による影響はありましたが、潜水艦用リチウムイオン電池の売価見直し、経費の増加もあり、前年並みとなりました。

通期業績は変更していません。

## 3 貸借対照表




**ポイント**

- 主に産業電池電源やリチウムイオン電池で在庫が増加
- 国産ESSの生産に向けた茨城工場の建屋取得により建設仮勘定が増加

| | 2026/3末 | 2026/9末 |
|---|---|---|
| 自己資本比率 | 53.3% | 52.3% |
| 借入金総額 | 878億円 | 1,298億円 |

15

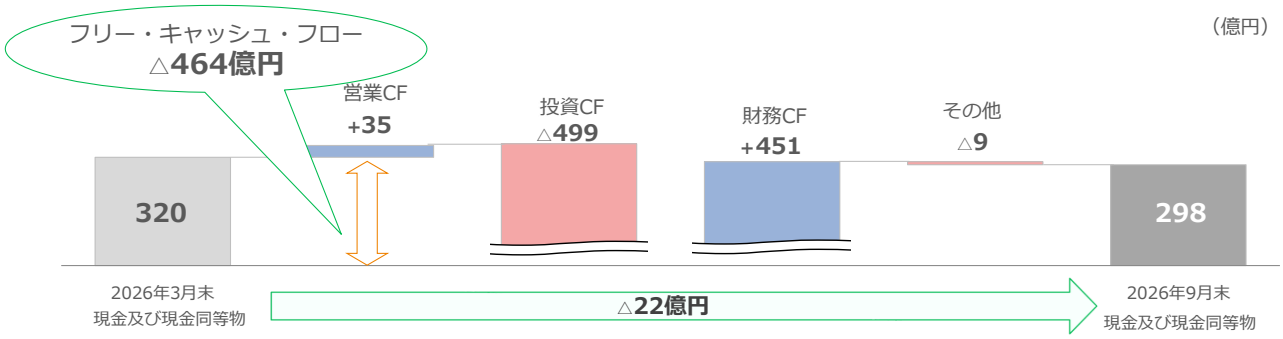
© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

2026年9月末時点の貸借対照表です。
総資産は7,569億円となり、2026年3月末対比で+159億円の増加となっています。

有形固定資産は+147億円増加しております。
茨城工場の取得、BEV工場の建設により建設仮勘定が大きく増加しました。
一方で不在が大きく増えています。短期借入金は減っているものの、コマーシャルペーパーの発行、長期借入金を中心とした借入金が増加し、9月末では約1,300億円と前年度末からは大きく増加しています。

自己資本比率は52.3%で安定的となっています。

## 4 キャッシュ・フロー計算書




ポイント

- 税前利益243億円を確保した一方で、棚卸資産が増加したことにより営業CFは35億円にとどまった。
- 茨城工場の建屋取得による設備投資などにより投資CFは△499億円となり、フリー・キャッシュ・フローは△464億円となった。
- コマーシャルペーパーや長期借入金、グリーンボンドの発行などにより上記投資を賄った。


© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

キャッシュフロー計算書です。

営業CFは35億円です。棚卸資産の増加が大きく影響しております。
需要期に向けた作りだめやリチウムイオン電池を中心とした一部部材の輸出規制の影響を見通して在庫を積み増しています。

投資CFは△499億円です。茨城工場の取得、そしてBEV工場の建設が進行したことによるものです。
財務CFは451億円です。フリーキャッシュフローのマイナスを補うための借入です。

## 5 設備投資・減価償却費・研究開発費

| （単位：億円） | | 2025 年度 第2四半期（4-9月） | 2026 年度 第2四半期（4-9月） | 増減 | 2025 年度 通期（4-3月） | 2026 年度 通期予想（4-3月） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 設備投資 | | 130 | **406** | +276 | 346 | 870 |
| モビリティ | 鉛蓄電池（国内） | 17 | **22** | +5 | 38 | 55 |
| | 鉛蓄電池（海外） | 44 | **56** | +12 | 116 | 140 |
| | リチウムイオン電池 | 25 | **34** | +9 | 82 | 90 |
| 社会インフラ | 産業電池電源 | 24 | **29** | +5 | 40 | 435 |
| | 航空・宇宙・防衛 | 20 | **8** | +245 | 72 | 40 |
| | その他 | | **257** | | | 110 |
| 減価償却費 | | 122 | **134** | +12 | 266 | 250 |
| うち、リチウムイオン電池 | | 30 | **42** | +12 | 73 | 76 |
| 研究開発費 | | 102 | **121** | +19 | 211 | 250 |
| （売上高研究開発費率） | | 3.8% | **4.0%** | +0.2P | 3.5% | 3.8% |

※設備投資額はBEV用リチウムイオン電池を除いて記載しております。

主な設備投資案件

- 国産定置用リチウムイオン電池の開発・量産に向けた投資（その他）

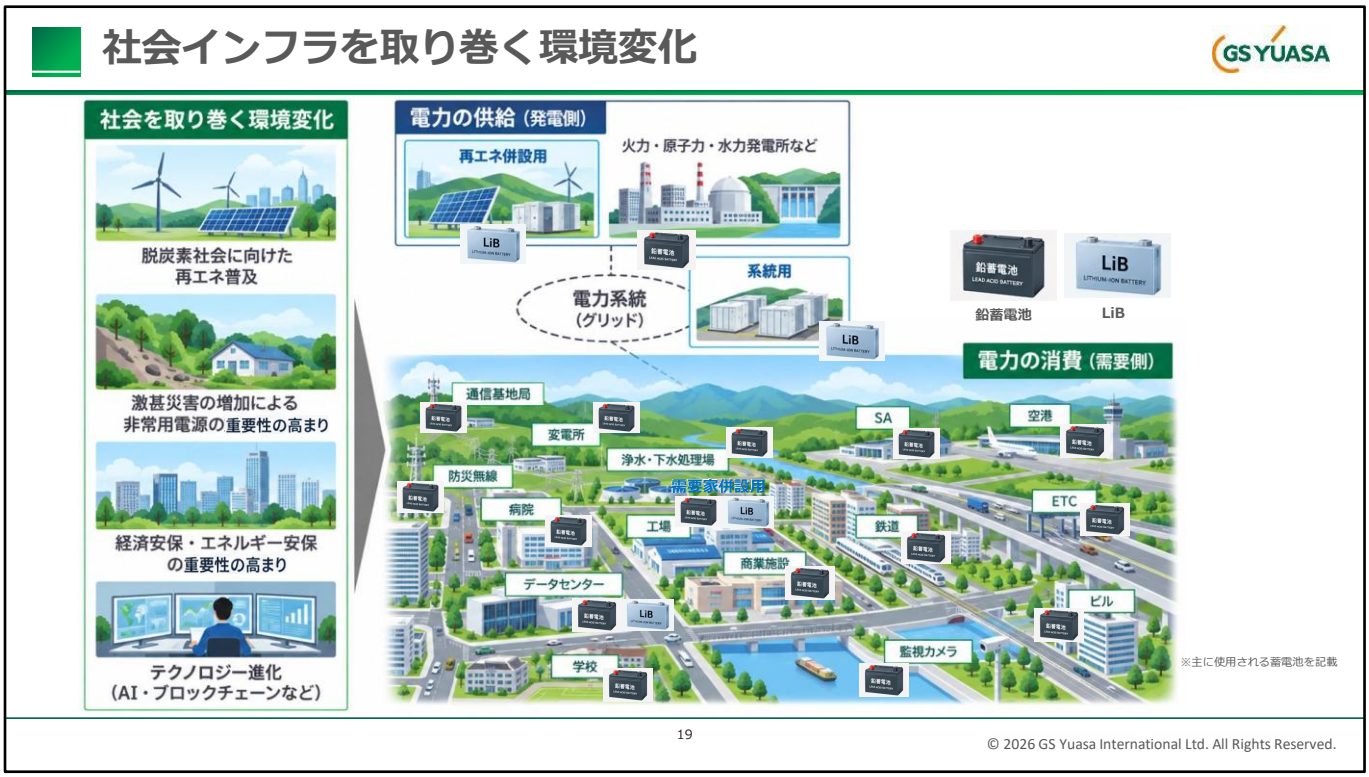


© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

設備投資に関しては工場取得のため大きく増加しました。
研究開発についてはESS、AIデータセンター向けの開発費が増加しています。

GS YUASA
Creating the Future of Energy

# 社会インフラにおける蓄電池ビジネスについて




社会インフラを取り巻く環境は大きく変化しています。
例えば、脱炭素社会実現に向けた再生可能エネルギーの普及、激甚災害の増加による防災機能の強化、経済安保、エネルギー安保の重要性の高まりによる資源・エネルギーの安定確保、AIなどの新技術の急速な進化による新インフラ需要の急拡大などです。

イメージ図にありますように、当社は社会生活や事業活動に欠かせない多くのインフラ（独立系インフラとネットワークインフラ）に蓄電池設備を供給しています。
これらのインフラ設備は互いに連携する関係にあり、今後それぞれのインフラ設備が高度化するに伴い供給する電池・電源も高度化します。

# 電力システムを取り巻く環境変化

**電力の消費**
**（需要側）**

**社会インフラのデジタル化・高度化**
- 社会インフラのデジタル化の進展
- クラウドサービス・AI・通信量の拡大による通信網・データセンターの重要性拡大




**電力の供給**
**（発電側）**

**再エネ普及**
- 太陽光・風力発電所などのクリーンエネルギーの拡大




**安定供給に向けた既存電源の活用**
- 既存火力発電所の維持および低炭素化に向けた設備更新・導入
- 安全性の確保を大前提とした、原子力発電所の再稼働に向けた動向




**安定した電力供給を実現する電力インフラへ** | **非常用電源やESSの需要が今後も拡大すると予想**

**1 非常用電源の重要性拡大** 激甚災害などによる電力トラブルへの対応

| | |
|---|---|
| **河川監視** | 河川氾濫の増加による監視体制の強化<br>関連設備 約36,000か所（雨量計・監視カメラなど） |
| **データセンター・通信設備** | クラウド・AI普及での重要性の高まり |
| **原子力発電所** | 再稼働に伴う更新需要増（寿命内での全数更新） |
| **スマートポール（多機能ポール）** | 高速道路の多機能化への対応 |

**2 系統安定化のためのESS需要拡大** 電力需給バランスの乱れへの対応

AIデータセンターの拡大や社会インフラの新規需要にともなう消費電力量の増加にあわせて、既存発電所・再エネなど**電力の発電側も拡大**

**電力の消費と供給のバランス調整を行う**
**ESSの重要性が更に高まる**



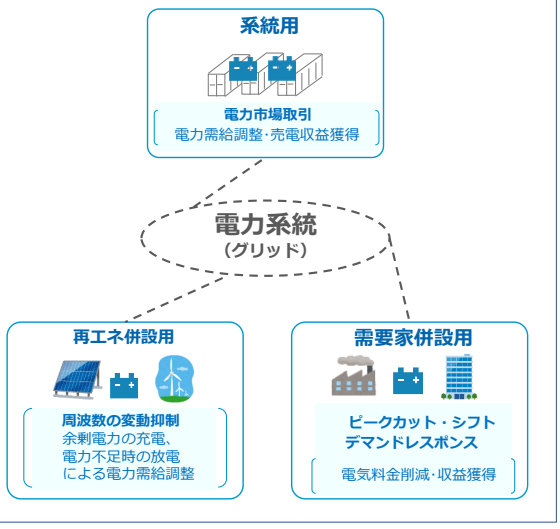
20

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

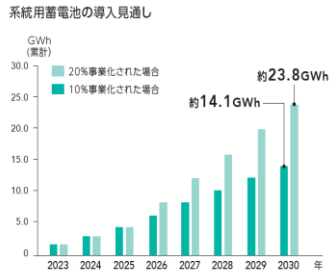
社会インフラの環境変化に伴い、国の重要基幹インフラである電力システムを取り巻く環境も大きく変化します。
社会インフラの高度化やAI技術の進化に伴うAIDCの急増に伴い電力消費量が飛躍的に増加します。
増加する電力を賄うために、再エネの拡大、既存電源の設備更新・新規導入、発電所をはじめとする電力系統の増強が必須になります。
こうした動きに合わせて系統安定化に必要なESS、AIDC負荷のバックアップ、各発電所や受変電設備の増強に必要な非常用電源設備等の需要も拡大します。

# ESS：市場の成長性について

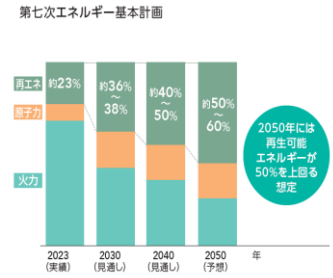
## ESSの市場




## 市場の成長性




出典：第3回GX実現に向けた専門家WG配布資料 内閣官房(2023年11月8日)を基に当社作成




出典：資源エネルギー庁「第7次エネルギー基本計画の概要」を基に当社作成

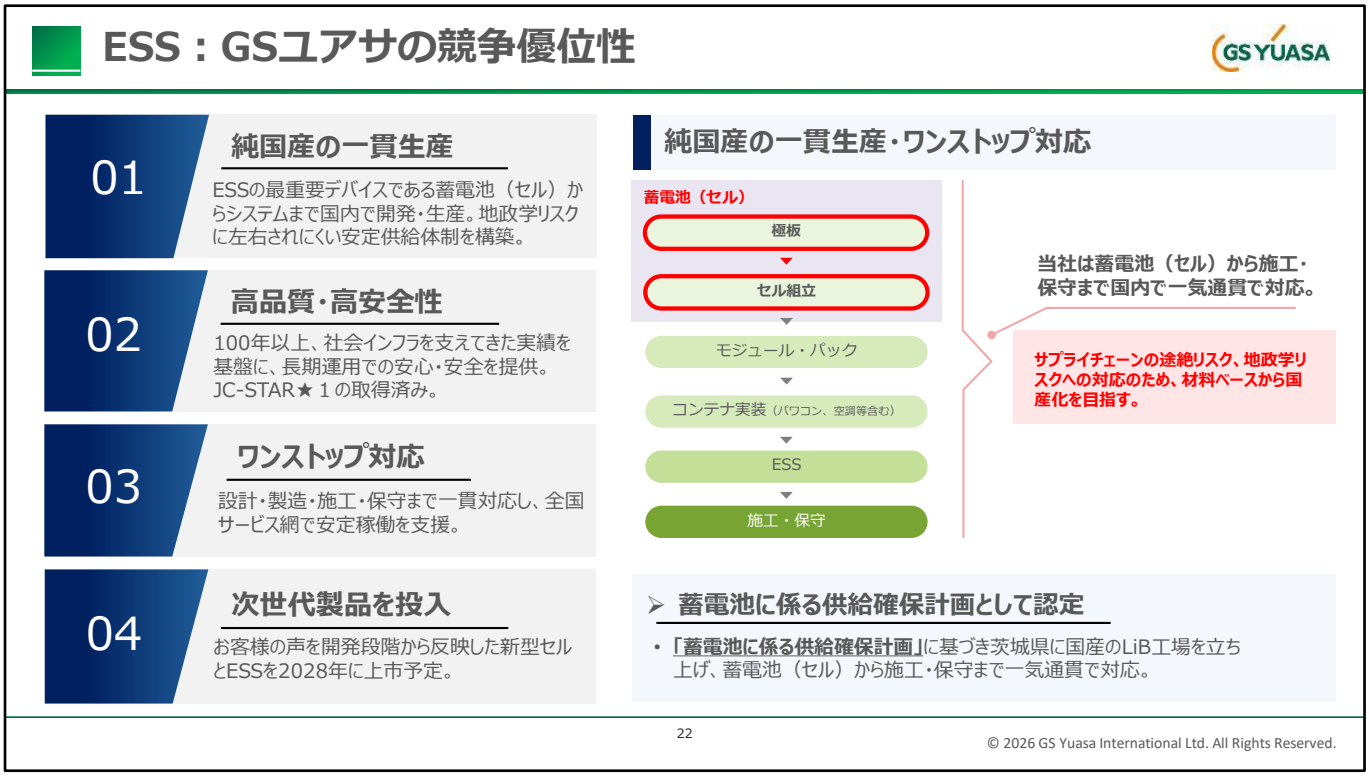
- 脱炭素化の進展を背景に、ESSは再生可能エネルギーの有効活用と電力系統の安定化を支える重要な社会インフラとして、市場成長が見込まれる。
- 海外メーカーの存在感が高まる中、ESSに求められる価値も変化している。
- 社会インフラとしての重要性が高まるにつれ、価格競争だけではなく、安全性や信頼性、安定供給能力、さらにはサプライチェーンの強靭性を含めた多角的競争に移行すると想定している。



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

本日ご説明するESSとAIDC分野は電力インフラのアプリケーションの一部であり他のインフラ設備と密接に連携しています。
系統蓄電池の需要は、電力需要の増加と再生可能エネルギーの増加に伴い、着実に増加すると予測しています。

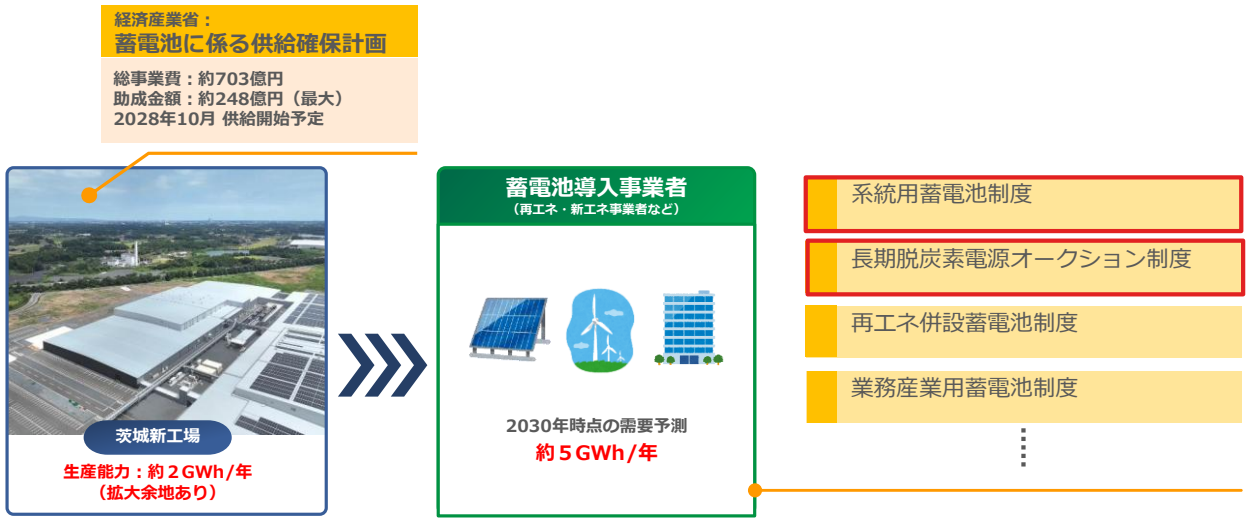
2040年断面の電源構成でも、再エネ比率40%～50%と増えていくため系統の安定化は必須です。
ESS市場については既にご承知の通り三つの用途があります。いずれも電力系統に接続し、系統と連携します。
ESSは国の重要基幹インフラである電力システムを支え、経済安全保障、エネルギー安全保障の観点から電力系統の安定化を守る役割に加え、安全性、信頼性、供給確保、サプライチェーンの強靭化も期待されています。当社の役割と優位性について次ページでご説明します。




当社の役割と競争優位性についてご説明します。
まずは左側の4点、Keyポイントである1と3についてご説明します。
純国産の一貫生産で、ESSにとって最も重要なのが蓄電池（セル）です。この蓄電池からシステムまで国内で開発・生産。当社では地政学リスクに左右されない安定供給体制を構築できるのが、当社の強みです。
3つ目のワンストップ対応ですが、純国産の一貫生産として、設計・製造・施工・保守まで一貫対応し、全国サービス網で安定稼働を支援します。
こちらは蓄電池。電源の知見を持っているからこそのサービスです。
純国産の一貫生産とは蓄電池を極版からセルの組み立てまでを当社独自で開発設計したものです。
一般的なシステムの場合、蓄電池（セル）はシステム構成比の中で50%から60%を占める非常に重要な部品で、こちらを当社は自社で製造いたします。
当社は蓄電池に係る供給確保計画に基づき、茨城県に国産のリチウムイオンバッテリー工場を立ち上げ、蓄電池（セル）から施工・保守まで一気通貫で対応します。

## ESS：経済産業省などの制度

- ✓ 当社は、「蓄電池に係る供給確保計画」の補助金を受けて、ESSの製造工場を立ち上げる。
- ✓ 導入事業者に対しては、「系統用蓄電池制度」と「長期脱炭素電源オークション制度」など複数制度が策定されている。



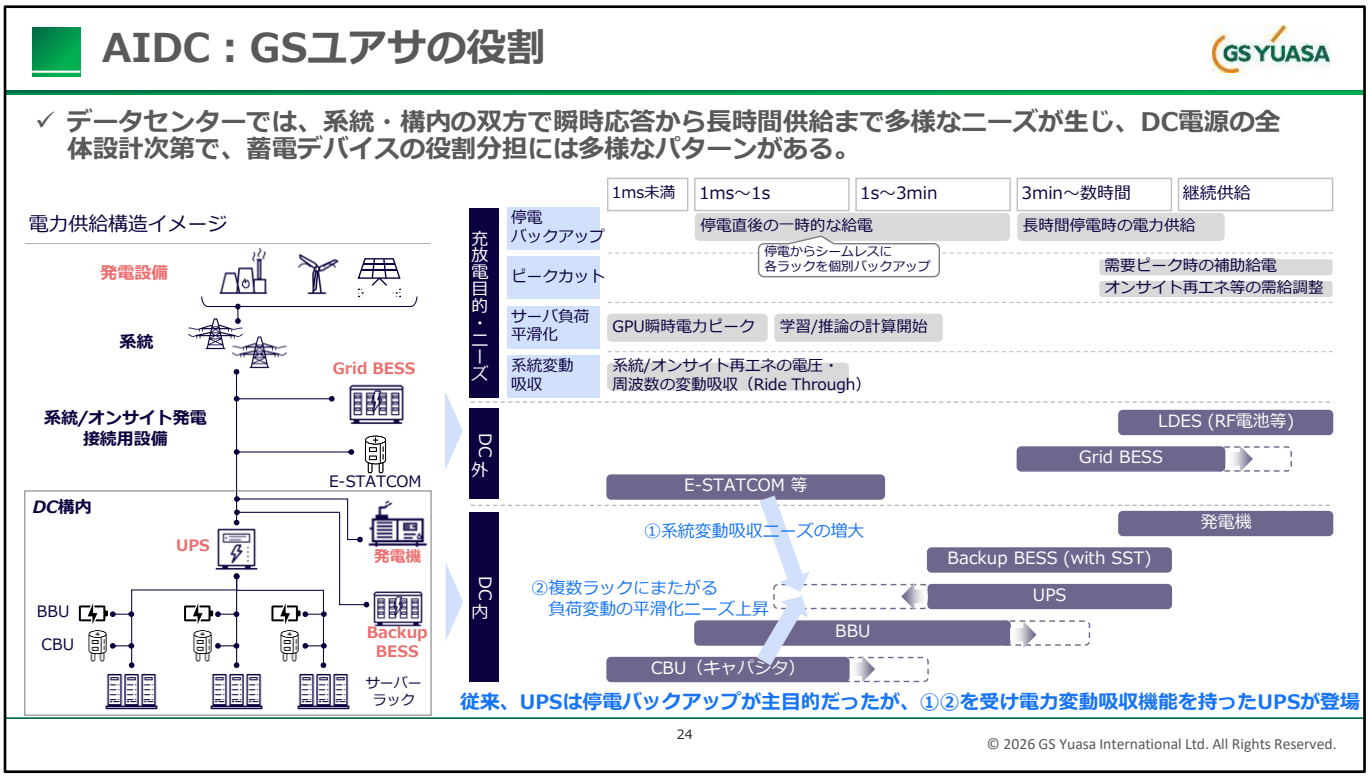


© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

当社は蓄電池の供給確保計画に基づき、茨城県にESS向けリチウムイオン電池工場を建設しています。
系統用蓄電池補助制度・長期脱炭素電源オークション制度を中心に、2030年時点で国内総需要の約40%から50%の供給を目指します。

2028年10月の生産開始を予定し、開始時点の生産能力は約2GWhです。敷地内には将来的な拡張余地があり、需要に応じて2.5GWｈ～3.0ＧＷｈの能力を増やすことが可能です。

2028年10月のSOP以降、順次フル生産に向けて生産立ち上げを行います。
現時点で生産能力分の物量確保の目途が立っています。



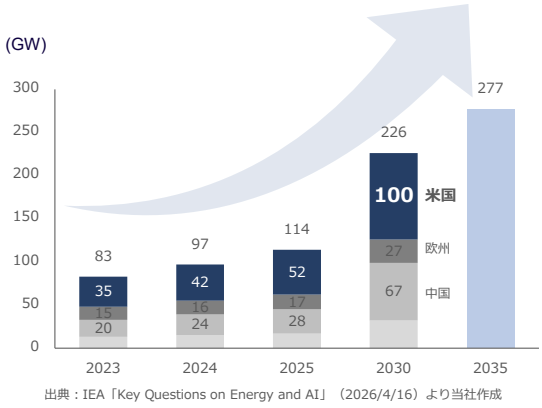

データセンターも電力インフラと密接な関係がありAIDCの外側（系統）と内側（構内）の両面で当社はAIDCのスペックに最適な蓄電池を供給します。
赤文字は当社の蓄電池が納入できる部分になります。
データセンターでは、電力供給の仕組みや必要なバックアップ時間に応じて、蓄電池や電源設備が使い分けられています。
当社は、系統側の蓄電池に加え、データセンター構内の非常用電源やUPS向けの電池を供給しています。
BBUよりも長い時間のバックアップを行う電池になります。
データセンターの技術は日進月歩であり、BBUとUPSがBackup BESSとして統合される動きもあります。
現在データセンターは、AC→DC→ACですがAC→DCシステムになり、HVDC化に移行しつつあります。

電源方式やサーバー構成は急速に変化しており、当社は重電・UPSメーカーと連携し、次世代のデータセンターに適した電池の開発を進めています。

# AIDC：北米DCマーケットの拡大

## データセンター受電容量は2035年に277GWへ拡大し、米国が市場拡大を牽引する

### 地域別データセンター受電容量推移
（IEA　Baseシナリオ）




出典：IEA「Key Questions on Energy and AI」（2026/4/16）より当社作成

### 市場拡大に対する当社の状況

- 産業用リチウムイオン電池を長年開発・製造し、現在は米国大手データセンター向けにAIDC用UPS蓄電池を供給。
- 品質・性能に加え、特定国への依存を懸念する顧客から、透明性の高い対応も評価されている。
- 従来型UPSに加え、次世代HVDC対応UPSやBESS用蓄電池の検討要請を受け、AIDC向け供給先として期待されている。

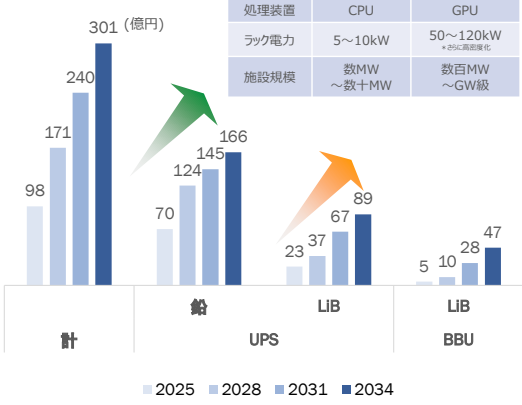

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

AIDC向け電池システムは北米市場にて推進中、米国市場から国内市場に展開します。北米では、協業先を通じてデータセンター向けUPS用電池を供給しており、既存製品の納入と次世代製品の開発を並行しています。

# AIDC：国内DCの見通し

## UPS・BBU用蓄電池の市場規模推計
（従来型IDCを含む国内市場規模推計）

| <参考> | 従来型IDC | AIDC |
|---|---|---|
| 処理装置 | CPU | GPU |
| ラック電力 | 5～10kW | 50～120kW ※さらに高密度化 |
| 施設規模 | 数MW ～数十MW | 数百MW ～GW級 |




※1（出所）「North America Data Center Ups Market Size & Outlook」「Europe Data Center Ups Market Size & Outlook, 2023-2030」「Japan Data Center UPS Market By UPS Type」「UPS Battery Market (2025 - 2030)」、「Data Center UPS Market Size, Share & Industry Analysis」を基に一部弊社補正し算出

### 鉛蓄電池

従来のDC向け（例：銀行、通信事業者など）には、コストや消防法の関係から鉛蓄電池のニーズが高く今後も成長を想定

### リチウムイオン電池

**1. 国内におけるAIDC向け蓄電池の重要性**

- 重要インフラの基盤： クラウド・行政・防衛等を支えるAIDCに不可欠であり、供給途絶は経済安全保障上の重大リスク
- 電力系統の安定化： AI/GPU需要による電力負荷増大に対し、負荷変動を吸収する蓄電池の国内確保が急務

**2. 当社「次世代AIDC向け蓄電池」の強み**

- 次世代システム適合： HVDCアーキテクチャへの適用を想定
- 高水準な性能・信頼性： 高出力・長寿命・高安全性を実現し、国際認証（UL1973／UL9540A等）に対応
- 国内一貫体制： 蓄電池（セル）からモジュールまで国内で開発・製造
  - ✓ サプライチェーンの透明性確保
  - ✓ 長期にわたる保守・運用サポートの提供



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

日本国内で従来型の銀行や通信事業者向けデータセンターで鉛蓄電池が使われています。
これは日本の消防法の関係でリチウムはコストがかかるためです。
AIDCについては、データセンターの負荷パターンとして鉛蓄電池では対応できないため、リチウムイオン電池が使用されます。

国内のAIDCの課題としてサプライチェーンやサイバーセキュリティがあり、国内のAIDC向けと北米では異なる事情があります。
次世代のAIDC向けについては、ESS同様に一貫で生産し供給する体制を整えています。
日本国内のUPS・BBUの市場規模は、LiBの方が小さいですが、AIDCの建設・導入が進むことで急激に伸びていくと考えています。

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。
本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。

GS YUASA
Creating the Future of Energy

連絡先
株式会社 ジーエス･ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報・IR）　柿島 辰年・青木 裕・田中 祥太・松沢 拓哉
Tel：075-316-3486
https://www.gs-yuasa.com/jp


© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

GS YUASA
Creating the Future of Energy

# 参考資料

# 参考資料. 売上高・利益予想

| (単位：億円) | 2025 年度 実績 上期実績 (4-9月) | 2025 年度 実績 通期実績 (4-3月) | 2026 年度 実績・予想 上期実績 (4-9月) | 2026 年度 実績・予想 8月 修正予想 (4-3月) (B) | 2026 年度 実績・予想 **11月 修正予想 (4-3月) (A)** | 増減 ((A)-(B)) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 2,722 | 6,090 | 3,002 | 6,800 | **6,800** | – |
| 営業利益（利益率） | 187 6.9% | 602 9.9% | 243 8.1% | 630 9.3% | **665 9.8%** | +35 +0.5P |
| 経常利益 | 173 6.4% | 582 9.6% | 244 8.1% | 610 9.0% | **635 9.3%** | +25 +0.3P |
| 親会社株主 当期純利益（利益率） | 105 3.8% | 419 6.9% | 142 4.7% | 395 5.8% | **410 6.0%** | +15 +0.2P |
| EPS（1株当たり利益） | 104.33 円 | 417.33 円 | 141.23 円 | 393.74 円 | **408.68 円** | +14.94 円 |
| 配当金（円／株）（26年度は予定） | 30 円（中間） | 90 円（通期） | 30 円（中間） | 98 円（通期） | **98 円（通期）** | – 円 |
| 相場情報／前提条件 国内鉛建値（万円／t） | 35.10 万円／t | 36.01 万円／t | 37.20 万円／t | 38.0 万円／t | **36.0 万円／t** | △2.0 万円／t |
| 相場情報／前提条件 ＬＭＥ（US$／t） | 1,956 US$／t | 1,953 US$／t | 1,906 US$／t | 2,000 US$／t | **1,875 US$／t** | △125 US$／t |
| 相場情報／前提条件 為替（円／US$） | 146.07 円／US$ | 151.09 円／US$ | 160.04 円／US$ | 160.00 円／US$ | **160.00 円／US$** | - 円／US$ |



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

# 参考資料. 売上高・利益予想

(単位：億円)

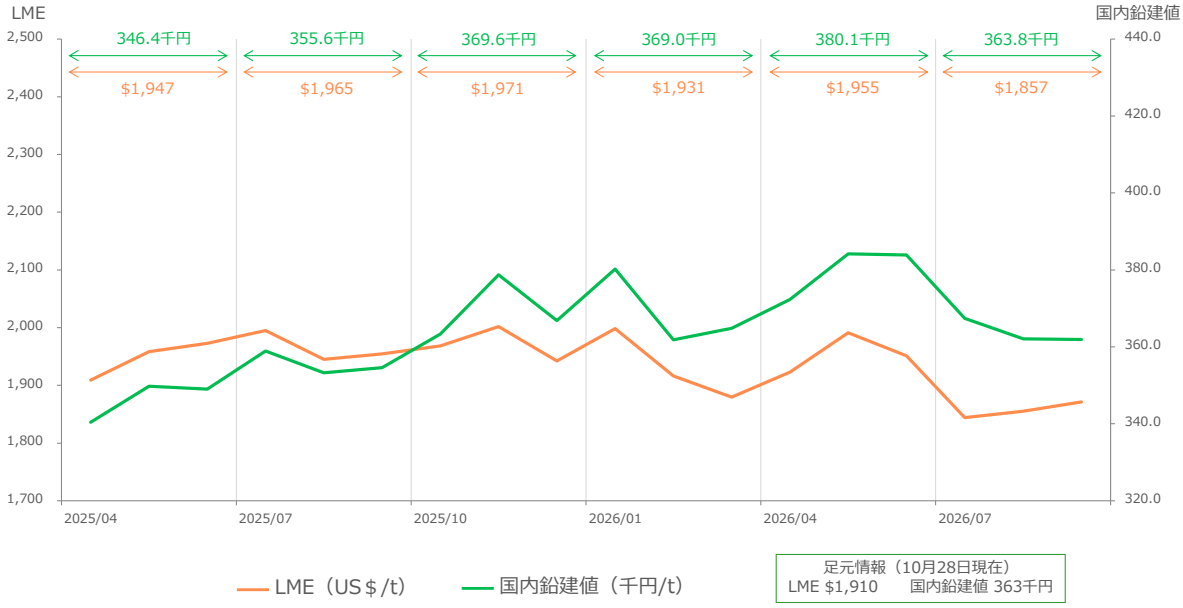
| | | 2025 年度 実績 | | 2026 年度 8月 修正予想（B） | | 2026 年度 11月 修正予想（A） | | 増減 ((A)-(B)) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:P) |
| モビリティ | 鉛蓄電池（国内） | 1,080 | 116 (10.7) | 1,170 | 120 (10.3) | **1,200** | **140 (11.7)** | +30 | +20 (+1.4) |
| | 鉛蓄電池（海外） | 2,286 | 223 (9.7) | 2,400 | 265 (11.0) | **2,400** | **280 (11.7)** | - | +15 (+0.7) |
| | リチウムイオン電池 | 899 | 49 (5.5) | 1,070 | 40 (3.7) | **1,040** | **50 (4.8)** | △30 | +10 (+1.1) |
| 社会インフラ | 産業電池電源 | 1,600 | 199 (12.4) | 1,900 | 195 (10.3) | **1,900** | **180 (9.5)** | - | △15 (△0.8) |
| | 航空・宇宙・防衛 | 196 | 27 (13.6) | 230 | 25 (10.9) | **230** | **25 (10.9)** | - | - ( - ) |
| | その他 | 29 | △11 | 30 | △15 | **30** | **△10** | - | +5 |
| | 合計 | 6,090 | 602 (9.9) | 6,800 | 630 (9.3) | **6,800** | **665 (9.8)** | - | +35 (+0.5) |

(注) 2026年度より鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。
2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

# 参考資料．原材料価格の推移

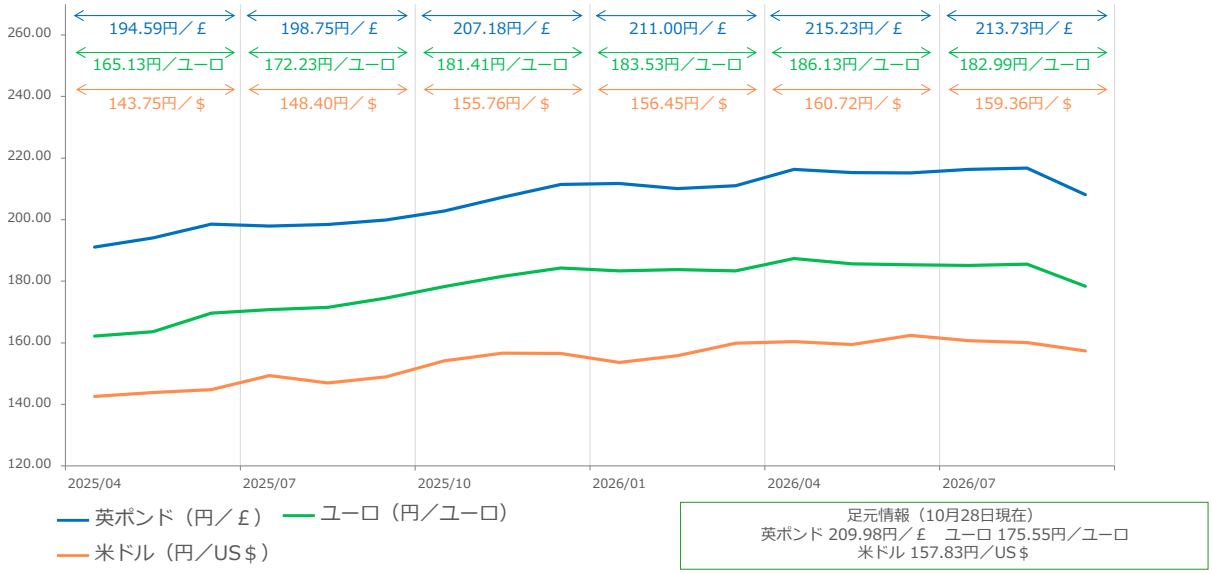





© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

# 参考資料．為替の推移

英ポンド・ユーロ・米ドル




足元情報（10月28日現在）
英ポンド 209.98円／£　ユーロ 175.55円／ユーロ
米ドル 157.83円／US$



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

# 参考資料．セグメント別業績の四半期推移

(単位：億円)

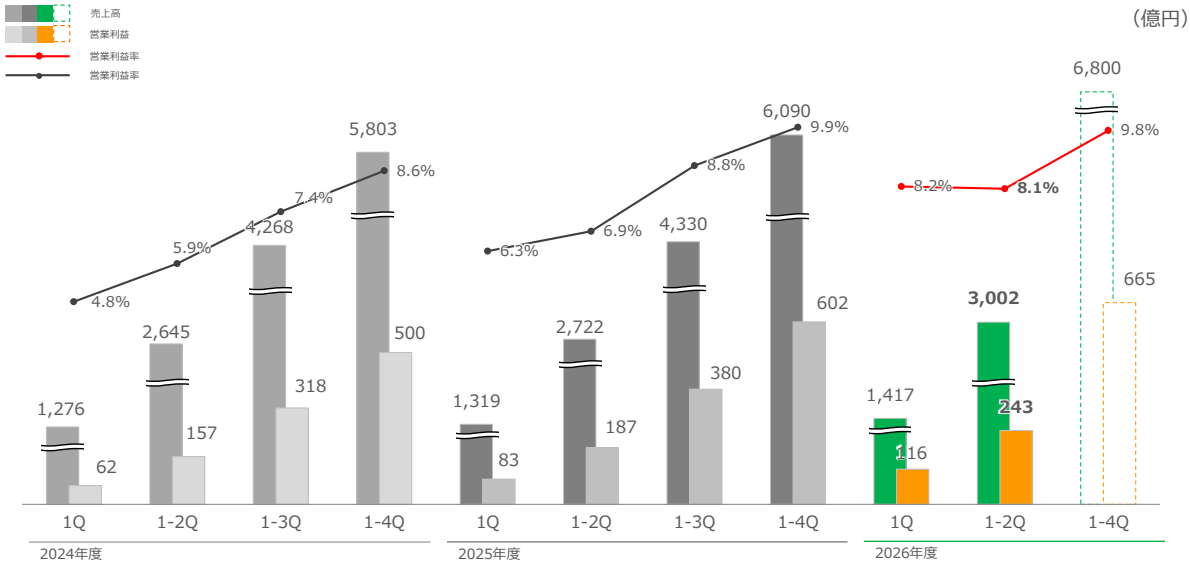
| | | 2025 年度 | | | | | | | | | | | 2026 年度 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第1四半期 (4-6月) | | 第2四半期 (7-9月) | | 第3四半期 (10-12月) | | 第4四半期 (1-3月) | | 通期 (4-3月) | | | 第1四半期 (4-6月) | | 第2四半期 (7-9月) | | 第3四半期 (10-12月) | | 第4四半期 (1-3月) | | 通期見通し (4-3月) | | |
| | | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | EBITDA (EBITDAマージン:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | 売上高 | 営業利益 (利益率:%) | EBITDA (EBITDAマージン:%) |
| モビリティ | 鉛蓄電池（国内） | 224 | 17 (7.5) | 247 | 20 (8.0) | 309 | 42 (13.5) | 300 | 37 (12.4) | 1,080 | 116 (10.7) | | 245 | 24 (9.9) | 262 | 23 (8.7) | - | - | - | - | 1,200 | 140 (11.7) | - |
| | 鉛蓄電池（海外） | 514 | 38 (7.5) | 543 | 42 (7.8) | 622 | 63 (10.2) | 606 | 79 (13.1) | 2,286 | 223 (9.7) | | 578 | 72 (12.5) | 548 | 56 (10.2) | - | - | - | - | 2,400 | 280 (11.7) | - |
| | リチウムイオン電池 | 194 | △0 (△0.2) | 211 | 9 (4.1) | 212 | 18 (8.7) | 283 | 22 (7.9) | 899 | 49 (5.5) | | 215 | 8 (3.7) | 242 | 10 (4.0) | - | - | - | - | 1,040 | 50 (4.8) | - |
| 社会インフラ | 産業電池電源 | 332 | 25 (7.7) | 350 | 27 (7.6) | 409 | 62 (15.2) | 509 | 84 (16.6) | 1,600 | 199 (12.4) | | 322 | 10 (3.0) | 467 | 24 (5.0) | - | - | - | - | 1,900 | 180 (9.5) | - |
| | 航空・宇宙・防衛 | 48 | 8 (15.6) | 44 | 6 (12.8) | 50 | 7 (14.5) | 54 | 6 (11.6) | 196 | 27 (13.6) | | 50 | 6 (12.6) | 59 | 6 (10.7) | - | - | - | - | 230 | 25 (10.9) | - |
| | その他 | 6 | △5 | 7 | 1 | 7 | △0 | 8 | △7 | 29 | △11 | | 7 | △5 | 8 | 9 | - | - | - | - | 30 | △10 | - |
| | 合計 | 1,319 | 83 (6.3) | 1,403 | 104 (7.4) | 1,608 | 192 (12.0) | 1,760 | 222 (12.6) | 6,090 | 602 (9.9) | 868 (14.3) | 1,417 | 116 (8.2) | 1,585 | 128 (8.0) | - | - | - | - | 6,800 | 665 (9.8) | 915 (13.5) |

(注) 2026年度より鉛蓄電池（海外）に含まれる産業用海外事業を産業電池電源に変更しております。
2025年度の売上高および営業利益（利益率）は変更後の報告セグメントにより記載しています。



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

# 参考資料. 売上高・営業利益・利益率推移

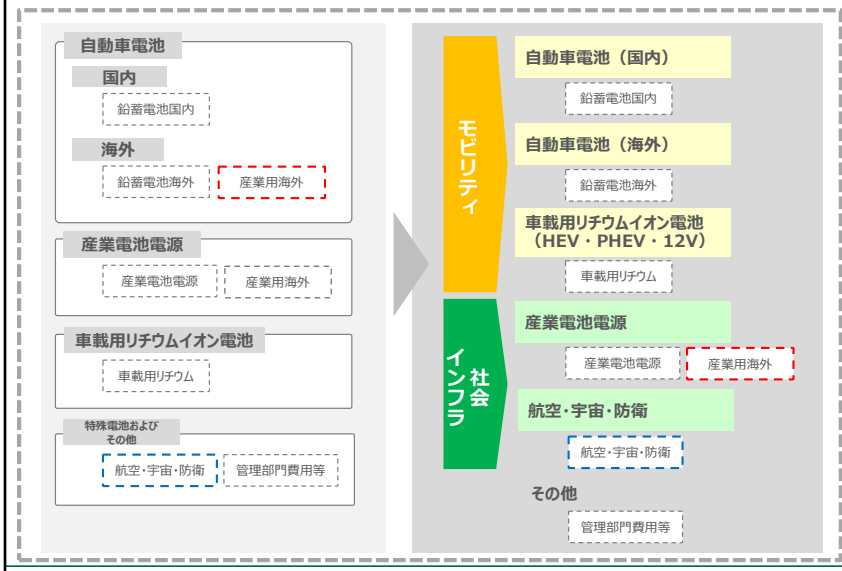




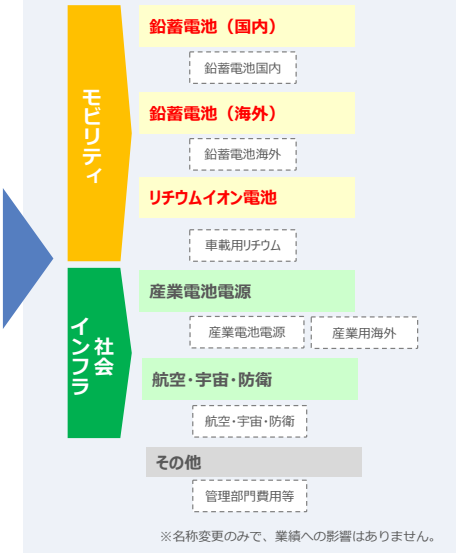

© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

# 参考資料．セグメント名称変更について

## 2026年5月13日 決算説明会時のセグメント変更内容




## 2026年度1Q決算以降の名称




※名称変更のみで、業績への影響はありません。



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

# 参考資料．サステナビリティ活動に対する社外評価

## サステナビリティ評価

（2026年9月末時点）

| | MSCI（米）ESG格付け※1 | FTSE（英）ESG格付け※2 | 東洋経済新報社CSR評価 ※3 | | | | CDP（英）評価※4 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 人材活用 | 環境 | 企業統治 | 社会性 | |
| 2026年 | AA | 4.2 | AA | AAA | AA | AA | B |
| 2025年 | A | 4.0 | AA | AAA | AA | AA | B |
| 2024年 | BBB | 3.9 | AAA | AAA | AA | AA | B |
| 2023年 | BBB | 3.8 | AAA | AAA | AA | AAA | A- |
| 2022年 | BBB | 3.6 | AA | AAA | AA | AA | A- |

※1 MSCI（米）ESG格付けはジャパンESGセレクトリーダーズ指数によるものであり、「AAA、AA、A、BBB、BB、B、CCC」の7段階評価（評価更新時期：6月頃）
※2 FTSE（英）ESG格付けは、「1~5」の5段階評価（評価更新時期：6月頃）
※3 東洋経済新報社CSR評価は「AAA、AA、A、B、C」の５段階評価（評価更新時期：11月頃）
※4 CDP（気候変動プログラム）は「A、A-、B、B-、C、C-、D、D-」の8段階評価（評価更新時期：4月頃）



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.

# 参考資料．今後のIR予定

| 日時 | イベント | 登壇者 |
| --- | --- | --- |
| 2月5日（金）<br>15:00予定 | 2027年3月期 第3四半期決算発表 | – |
| 同日<br>16:00～17:00予定 | 2027年3月期 第3四半期決算説明会 | 取締役CFO 松島 弘明 |



© 2026 GS Yuasa International Ltd. All Rights Reserved.